

「VICTORY！」は、『湘南ベルマーレ』というJリーグクラブのホームタウンに住むみなさんに、サッカーを通じてより多くの人とふれあい、地域への思いを深め、スポーツの楽しさを体感していただきたい、そんな願いを込めてASAがお届けする情報紙です。

企画・制作 / 株式会社 朝日新聞経営研究センター 協力 / 株式会社 湘南ベルマーレ

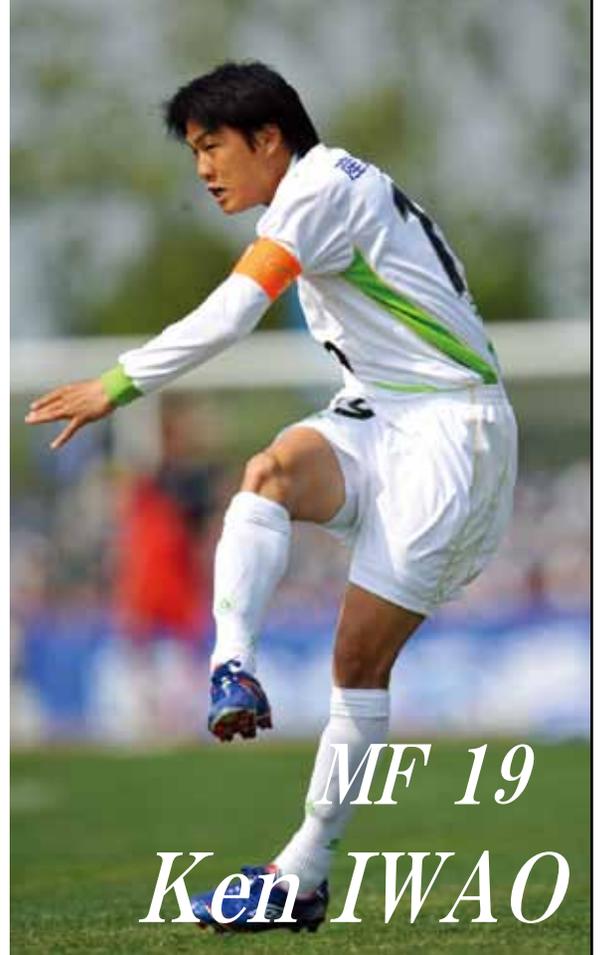
「湘南ベルマーレの一員として皆様に挨拶ができること、サッカー選手として、まだサッカーを続けられるということを本当に感謝しています」。

2011年新体制発表会見の挨拶で、そう心境を語った岩尾選手。その言葉は静かに、しかし確かな存在感としてその場にいた人々の心に残るものだった。

高校・大学時代はほとんど無名で、「夢」だと思っていたプロサッカー選手への道が今、現実となった。

その驚きを隠さないのも 岩尾選手らしさ。歩み始めたプロとしての日々、初めて踏んだJリーグのピッチ。

現在の胸の内を聞いた。(インタビューは5月9日に実施)



MF 19

Ken IWAO

岩尾 憲 200%の想い。

ピッチに立ったとき、今まで意識したことがないくらい強く、強く「ゴールを決めたい」と思った。

ー5月4日の水戸戦が、Jリーグデビューとなりました(後半81分にアジエル選手と交代で出場)。感想を聞かせてください。

開幕のあとケガをしてしまい、その後ベンチにも入れなかった。「ようやく憧れのピッチに立てたんだな」と思いました。出場時間は短かったけれど、試合の入り方を含め、ミドルシュートも1本打てたし、思ったよりは良かったという感じです。

ー昨日の試合(5月8日愛媛戦)にも出てほしかったんですが、それほど甘くないですね。

ーベンチにいるときは、どのようなことを考えていましたか。

出るにしろ出ないにしろ、まずチームが勝つことが一番重要です。自分個人というより、競技場に来てくれた人達が喜んでくれて…昨日の試合だったらゴールデンウィークの最後を一緒に笑って終われたらベストだな、と思っていました。その中で自分にチャンスがあれば、チームに貢献したいという気持ちでした。

ー昨日の試合では、同じ大卒ルーキーのFW高山薫選手が初ゴールを決めました。どのような想いで見ていましたか。

率直に言うと「悔しい」です。自分が得点を決めて、あんな風にサポーターの前に走っていくこともひとつの夢ですから。それを先にやってのけたので、悔しい想いはあります。でもチームの得点ですから100%嬉しくて…100%悔しかったです。

ー出身高校は、群馬県立西邑楽高校のスポーツ科ですが、選手やスポーツ専門の職業を目指すための学科なのですか。

いや、単純にスポーツが好きだったり授業で体育をたくさんやりたい、という生徒の集まりです。その高校の先生に「サッカーだけをやっていてもサッカーは上手にならない」と言われて、勉強もしっかりやればサッカーが上手くなるんじゃないかと妄想して(笑)

ー勉強というのは、頭で考えるサッカーをすることですか？

若かったというが無我夢中だったので、そこまで深く考えたわけではないです。勉強して成績を上げるというのは、人として成長することだし、人としての成長はサッカーの成長である、と思い込んでいました。学校では、制服のネクタイをルーズに下げるのが流行っていたけれど、僕はネクタイをきちんと

と締めていた。それもサッカーの成長につながると信じて。そんな風にしていたら成績も上がったので、先生から指定校推薦の枠で日体大(日本体育大学)を勧められたんです。サッカー選手になれたら、という夢はあったけれど、現実的には教員の道を目指そうと思い、日体大に進学しました。

ーその大学のリーグ戦で、ベルマーレの曹コーチの目にとまり、プロへの道が開けたわけですが、入団する前の湘南ベルマーレはどんな印象でしたか。

昨年の5月ごろから練習に参加させてもらっていたのですが、同時に大倉部長にお願いして公式戦を何度も観戦させてもらいました。強豪ぞろいのJ1リーグで、なかなか結果が出せずに苦しい状況でも、練習では決して下を向かず、次に向かっていく姿勢が感じられて、率直に良いチームだなと思いました。自分もこのチームと一緒にサッカーができれば、どんなに幸せだろうなって思っていたんです。

ー入団して、Jリーグ出場も果たして、次はもっと長い時間…スタメン出場が目標になると思うのですが、岩尾選手のプレーの見どころを教えてください。

全力を出し切ってプレーするというのは大前提として、前にボールを入れるのが好きなので、楔(くさび)からアクションを起こしてまた仕掛けてシュートとか。直接ゴールに向かうのもいいですが、それにとらわれずにその状況で一番いい判断ができればと思います。それからフリーキック、決めたいです。ー開幕前の練習試合(vs. ツエーゲン金沢)では、みことなフリーキックを決めましたね。サポーターの皆さんにもあの印象は強烈だったと思います。

そうですね。あれがあってからフリーキックを期待されるようになり、自分でも意識するようになりました。ただ、僕は今までゴールを強く意識したことがなかったんです。どちらかというと、アシストに美学を感じるタイプだったので…。でも試合のピッチに立ったとき「ゴールを決めたい」ってすごく思ったんです。今までそんなに強く思ったことがないくらいゴールを決めたいと思った。カオル(高山選手)に先を越されたけれど、いつか決勝点となるようなゴールを決めたいです。そうすれば、嬉しさも自分自身の分とチームと…200%ですね。

ー競技場に来てくれるサポーターにメッセージをお願いします。

僕にとって大観衆のなかでプレーできるというのはすごいことで、サポーターのみなさんには感謝しています。来てくれたお客さんのひとりひとりに自分のプレーで想いが届いたり、結果を出すことで一緒に喜びを感じたいと思っています。シーズンの終わりにみんなで優勝・昇格を経験できるよう、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

ーJリーガーになったこと、ご家族はどのように思っていますか。

家族(両親・兄)は、僕より喜んでます。「湘南」って僕が入らなければ、たぶんずっと関わることのなかったクラブですよ。それが僕が入団したことで、家中がベルマーレカラーです(笑)

岩尾 憲(いわお けん) Profile

1988年4月18日生まれ(23歳) 群馬県館林市出身 MF
3つ違いの兄の影響で5歳からサッカーを始める。中学・高校は学校の部活動でサッカー部に所属。日本体育大学を卒業後、2011年湘南ベルマーレ入団。 175cm/65kg

11節 高山・12節 永木が初GOAL 大卒ルーキーの活躍が光る

J2第11節、ホーム愛媛戦で、今季専修大より新加入した高山薫選手(FW No.23)がプロ初ゴール。試合は終了間際に愛媛に追いつかれ1-1の引き分けに終わったが「自信をもってピッチに入り、結果、点を取ることができてすごく幸せでした。監督やコーチ、支えてくれた多くの人のおかげです。」と手応えと感謝を言葉にした。

5月15日の第12節、鳥栖戦では中央大から加入の永木亮太選手(MF No.6)がゴールを決めた。同じくプロ初となるゴールで先制。後半、猛攻をしかけてきた鳥栖に対し無失点で抑え、開幕戦以来のホーム平塚での勝利となった。「前節ではシュートチャンスになかなか打てなかったので、

1週間その課題に取り組み、シュートで終わる意識を高く持って、試合に臨みました」と永木選手。高山選手も攻守にわたって貢献し、大卒ルーキーの活躍が光った。

試合後、勝利を喜びあう

若手選手たち

写真左から

ルーカス(FW 30)
永木亮太(MF 6)
高山薫(FW 23)
遠藤航(DF 26)



東日本大震災による中断をはさんだため、開幕戦以来2か月ぶりとなったホームでの「勝利のダンス」。

●ホームゲーム試合日程 ※会場はすべて平塚競技場

節	開催日	キックオフ	対戦相手
14	5月29日(日)	13:00	ザスパ草津
16	6月12日(日)	19:00	栃木SC
19	7月2日(土)	19:00	東京ヴェルディ
21	7月17日(日)	19:00	ジェフユナイテッド千葉